

岩立幸一の激走「本州縦断・青森～下関 1521km の旅」

取材・文／小山智久

本州の端から端までをほぼ最短距離で繋ぐ「本州縦断・青森～下関 1521km フットレース」(主催/NPO 法人スポーツエイド・ジャパン)。

2020年10月、日本最長の1ステージレースとなるこのレースを完走したのが岩立幸一さん。記録した347時間35分(14日と11時間35分)というタイムは、従来の記録を約44時間も更新する驚異的なコースレコードとなった。

ほかにも200kmレースや24時間走などで輝かしい成績を収めている岩立さんはどんな旅路を行き、1521kmという距離を攻略したのか。ほぼ時を同じくして同じ道を走った筆者とともに振り返る。

1日110km進み、14日以内の完走を目指しました

——「本州縦断・青森～下関 1521km フットレース」(以下、本州縦断フットレース)のことはいつからご存じでしたか？

岩立 地元の走友会で一緒だったランナーが、2014年にこのレースを完走されたんです。当時は自分のようなサラリーマンには無縁だろうと思っていましたが、2020年に入り、新型コロナウイルスの影響で仕事が減って。今ならできるかもしれないと思ったんです。ちょうどランニングアプリ「TATTA」の月間走行距離を競うイベントで4月から毎月1000km走っていたから、練習量も問題なさそうでしたし。家族には走力のある今やりたいんだ、最後の大きな挑戦だと頼み込みました。子どもたちは二つ返事で、「お父さんの部屋、使ってもいいよね？」という感じでしたけど(笑)。

——スタートを9月下旬にしたのには、何か理由があるんですか？

岩立 申し込みをしたのが8月でしたから、できる期間も限られていたんです。このレースは任意スタートですけど、「4月1日から10月1日までにスタート」と決まっていますから。そうすると9月か10月になるわけですけど、ちょうどTATTAの関係で取材を受けたとき、場のノリで10月の月間走行距離を競う「オクトーバーラン」で2000km走することを宣言させられていて(笑)。だったら「本州縦断フットレース」を完走の方が距離は稼ぎやすいし、せっかくだから9月も1位を取ろうと思い、9月末のスタートにしました。

——驚いたのが、スタート前日も20km走ってますよね？

岩立 走りましたね。1位を取るには、20kmでも走っておいた方がいいだろうと。まあ、ウォーミングアップです(笑)。あとはスタート1週前に4連休があったから、本番前に感触を確かめておこうと、4日連続で70km走りました。

——岩立さんクラスになると、“疲れを抜く”という概念はないんですね(笑)。挑戦にあたり、どなたかの完走記などを参考にされましたか？

岩立 いえ、誰の完走記も読みませんでした。どこに掲載されているのか、探し方もよくわかりませんでしたし。一応、2019年に林原誠さんが出した391時間（16日と7時間）がベスト記録ということは知っていたんですけど。

——当然、新記録が頭にあったと思いますが、1521kmをどのように攻略しようかと？

岩立 ちょうどその頃、朝晩の通勤ランで月間走行距離を稼いでいたんです。会社まで往復60km以上あったので、日中の仕事をしている間も走れるなら、1日100kmから110kmは進めるだろうと。110kmで計算すると14日になるから、予備日を1日加えて15日間を予定して。できれば14日以内にゴールし、1日ゆっくりして帰るのが理想でした。

——24時間走で240kmの記録を持つ岩立さんなら、宿泊回数を減らして200km弱×8回や150km×10回といった形も可能だったと思いますが。

岩立 そうすると夜に走ることも増えるし、疲れが残ると思ったんです。僕は5月に25日連続で70km走ったんですけど、ちゃんと休息が取れば体はわりと平気だったんですね。それにプラス3、40kmなら行けそうでしたけど、それ以上はさすがに回復しきれず、走るペースが落ちそうだと感じて。それで毎日ちゃんと休息を取ることにしたんです。

——行動時間が長くなると、休むタイミングも難しくなるんですよね。ビジネスホテルはだいたい15時以降でないとチェックインできないし、ほかに休めるようなスーパー温泉やネットカフェもなかったり。岩立さんはどうやって宿を探したんですか？

岩立 出発前に平均110kmと100kmで進んだときのプランを立てて、泊まりたい場所の周辺にある宿をピックアップしたんです。旅行予約サイトで扱っていない宿も多いから、グーグルマップも併用しましたね。目的地周辺を検索すると宿泊施設が表示されるから、電話で泊まれるか聞くんですよ。だいたい毎日お昼ぐらいまで走って、行けそうだなと思ったら、食事しながら宿泊予約を入れていました。

——電話予約って意外と大変ですよね。電話が繋がらなかったり、営業をやめている宿もありますし。

岩立 だから何回も掛け直したり、諦めて違う宿に電話することも多かったです。宿泊費を考えると素泊まりの方が安上がりなんですけど、夕食付きでないと泊められないと言われることもありましたし。特に東北は泊まりたい場所に宿が少なかったから、最初の3日は予約を入れてからスタートしました。初日が北秋田の米内沢（110km）、2日目が山形のかほ市（230km）、3日目が鼠ヶ関（山形と新潟の県境・330km）付近ですね。2日目はなかなか宿が見つからなくて、120kmほど走ることになりましたけど。民宿や旅館だと20時までにチェックインしてほしいと言われることも多いし、夕食付きの宿だと、何時に着くかわからないのは困るとも言われて。なので、何時に着いてもあまり問題のないビジネスホテルを選ぶようにしました。

——ネットカフェは選択肢に入れなかったんですか？

岩立 頭の片隅にはありましたが、結局泊まりませんでしたね。だいたいネットカフェの近くにビジネスホテルもありましたし、Go To トラベルキャンペーンをやっていたから、

さほど費用も変わらなくて。だったらベッドのあるビジネスホテルの方がいいかなと。

あの山形の海はいまだに忘れられません

——「本州縦断フットレース」は青森から新潟までの通称 R7 (430km)、新潟から京都・舞鶴までの R8 (520km)、舞鶴から下関までの R9 (571km) と大きく 3 ブロックに分けられますが、最初の R7 で岩立さんがほぼ 4 日も使ったのはちょっと意外でした。

岩立 序盤は余裕があったから、観光しながら進んでいたんです。館山スポーツエイド・ジャパン代表がよく「ジャーニーランを楽しんでください」と口にされているし、積極的に寄り道した方がいいんだろうなと。海沿いだったら砂浜に降りたり、岬まで足を伸ばしてみたり。あと、山形の海沿いに 16 個ぐらい変わった岩が並んでるところがあったじゃないですか。

——十六羅漢岩（遊佐町・260km）ですかね。

岩立 あそこもわざわざ展望台に昇って、上から岩を眺めたりしたんです。次にいつ来れるかわからないし、いろいろ見ておこうと。さすがに後半はあまり余裕がなくて、コースの近くにある鳥取砂丘(1088km)ぐらいしか寄れませんでしたけど。出雲大社(1246km)は行くか迷いましたが、さすがに遠くてやめました。写真もたくさん撮りましたよ。いい記念になるし、写真を見ると思い出が蘇ると思って。実は青森駅では写真を撮ってくれる人がなかなか見つからなくて、スタートが 5 分遅れたんです。まあ、朝の 5 時ですから(笑)。

——最初から前途多難でしたね(笑)。

岩立 あと、資料によると秋田と山形の県境(255km)のチェックポイントは「有耶無耶の関」となっているんですけど、関所みたいな場所が見当たらず。海側に折れる道を行ってみたら、地図が設置されていてたんです。どうやら奥の細道の一部らしいんですけど、ここに有耶無耶の関があるって。

——たぶん、三崎公園に入ったんだと思います。舗装されていない道も多かったのでは？

岩立 確かに、トレイルみたいでした。踏み跡も薄いし、張り巡らされている蜘蛛の巣を棒でかき分けながら進むっていう。奥の細道って大変なんだな、と思いました(笑)。まあ観光を兼ねた道迷いみたいな感じですかね。

——そんな感じのところ、ほかにもあったんですか？

岩立 たくさんありました。なるべく忠実に進まなきゃと思ったし、そもそも観光スポットを捨てるコースにしてあると思込んでいたんです。だから青森駅を出発して少し行くとりんご畑があったとき、「まずここを走らせたんだな」と思いましたし。もしかしたら 1 個もらえるかなと思って農家のおじさんに一声かけたんですけど、「今、おいしい時期なんだよ」と言われただけで、もらえませんでした(笑)。

——“ジャーニーラン”だから岩立さんみたいに寄り道しながら進むのも正解のひとつで

すし、単に景色を眺めながら走るだけでも楽しいですよ。

岩立 僕、生まれも育ちも埼玉だから、海を見ただけでうれしくて。特に山形の海を見たとき、あまりにもキレイで驚いたんです。確か、鶴岡の近くだったかな？

——湯野浜（300km）付近ですかね。確か夕日の名所だったはず。

岩立 そうそう、ちょうど日本海に夕日が沈むところも見ちゃって。そのあともちょくちょくキレイな海は見ましたが、やっぱりあの山形の海が忘れられませんね。思ったのが、このレースって海沿いをずっと進むと思いきや、陸側に入ることも多くて。近くに海があるはずなのに見えなかったりすると、ちょっと寂しかったりもしました。

足を回復させるため、ちゃんと休むようにしたんです

——「本州縦断フットレース」中は毎日、どのように過ごされたのですか？

岩立 朝4時に起きて、朝食を摂り、5時から走り始めて。20時頃には宿に着くように心掛けていました。補給は30kmを目安に、1日4回ぐらい。僕は長いレースだとコースの1/3も過ぎたら固形物を受け付けなくなるんですけど、今回はずっと食べることができましたね。マイペースで走れるのと、好きなとき食べられるのがよかったのかもしれない。

——どんなものをよく食べていたのですか？

岩立 とにかく菓子パンばかり、1日20個は食べていたと思います。何しろ朝から菓子パンでしたし(笑)。とりあえず体にカロリーを入れておけば潰れることはないだろうと、なるべくカロリーの高そうな、ホイップクリームたっぷりのパンなどを選んでました。

——お米系はまったく摂取されないんですか？

岩立 基本、夜だけです。お米はおなかにたまる感じが苦手。でも、1回だけ回転寿司でランチしましたよ。外食って注文したものが出てくるまで、意外と時間かかるじゃないですか。でも回転寿司だったら回ってきたものを食べれば、20分で店を出られるんです。コンビニでカップラーメンを買って食べるより早いと思います。

——何か名物的なものって食べました？

岩立 道の駅でトイレのついでに食べることはありました。食べたのは浜焼きとか、イカ焼きとか。道の駅って広い駐車場の奥に建物があるから、時間かかるんですよ。だから、そんな頻繁には寄ってなくて。あと3軒ぐらいは普通に宿のお夕飯を食べたのと、最初のうちは余裕あったから、宿の近くにあるお店に行ったりしました。

——宿ではどんなことをして過ごされていたんですか？

岩立 まずお風呂と洗濯ですね。ビジネスホテルだったらだいたいコインランドリーがあるんですけど、洗濯機の数が少なく、順番待ちすることもありました。洗濯ネットも持っていたから、2日に一度ぐらいはリュックも洗って。食事は近所のお店に行くか、コンビニやスーパーで買って食べるかで、宿に着いてから外出することも多かった。で、ごはんを食べながらチューハイを飲み、フェイスブックを書いて、0時ぐらいに寝て、ま

た4時に起きる。そんなサイクルでした。

——やってみて思ったのが、何気に時間ないですよ。

岩立 そうなんです。さっき寝たと思ったのに、もう出発するのかと。そのためのチューハイでもあるんです。飲んで横になれば、コテッと寝られますから。で、4時になったら目覚まし時計が起こしてくれる(笑)。通勤ランをやっていたおかげでさほど苦痛ではなかったし、ちょっとキツイなと思ったら、プラス2時間寝るようにしました。

——足を休めるのと休めないのでは全然コンディションが違いますよね。1時間弱の仮眠だと眠気は飛ばせても、足が重くてまともに走れない。岩立さんは睡眠時間こそ短いけど、走っていない時間は8時間ぐらいありますから。

岩立 経験上それがわかっていたから、ちゃんと休むようにしたんです。どこかでまとめて距離を稼ぎたい気持ちもあったけど、やるなら最後だろうと。ゴールしたらもう、家に帰るだけです。

心配性だから、軽さより安心感重視なんです

——装備や荷物はどんな感じでしたか？

岩立 ウェアの上下3組に、寝間着用のシャツと短パン。行きと帰り用の服も持ったままでした。防寒具は薄いウインドブレーカーとインナー。走っていれば問題ない程度の気温で、ほとんど使いませんでした。寒いのはわりと得意みたいで。あとは雨用にモンベルのレインウェアも持っていましたが、これもほぼ使いませんでした。僕、雨も好きなんです。よく土手を走るんですけど、雨だと誰もいないから独り占めできていいんです。

——足が濡れると水ぶくれやマメができやすくなるから、それも困るんですよ。

岩立 ビショビショになっちゃったら、もうダメですよ。僕も最後の最後が台風で、島根の津和野(1404km)に向かう途中で豪雨になって。全身ずぶ濡れになり、コンビニ寄ったとき足を確認したら、何個も水膨れができていました。もう最後だったから、針で抜いて絆創膏貼って、押し切っちゃいました。

——シューズや靴下はこだわっているんですか？

岩立 どちらも消耗品と割り切っていて、靴下なんて3足780円ぐらいです(笑)。シューズも特にウルトラ用とかは考えていなくて。ブルックスのケイデンスなんですけど、型落ちがすぐセールになるからいいですよ。結局そのワンシューズで1521km行きましたね。途中で交換することも考えたけど、さすがに替えの靴を持って走るのと思ったし、パッと買えるお店も見当たらず。せめて1回ぐらい、シューズも洗いたかったです。

——ほかにどんなものを持って行ったんですか？

岩立 GPSを使うとスマホの電池の減りが速いから、充電用バッテリーは3個ぐらい持ってました。あとは時計を充電するアダプターや、さっき話した目覚まし時計、あれは自分

のもですね。ホテルのものだけじゃ不安だし、念のために。フロントで臭いって思われるのも嫌だから、消臭スプレーやコロソネも持ち歩いていました。

——普通に旅行するぐらいの大荷物ですね。リュックは何を？

岩立 モンベルのクロスランナーパックでしたけど、全部入れたらパンパンで。食べ物はレジ袋に入れて、手にぶら下げながら走ることもありました。でも、途中で腰と肩が痛くなったから、ノースフェイスのTR ロケットに替えたんです。これはそこそこ量が入るし、左右のポケットが大きいから 500ml のペットボトルが 4 本入れられてよかったです。

——これを持って行ってよかった、助かったというものは？

岩立 正直、いらないものの方が圧倒的に多いですね(笑)。でも心配性だから軽さより安心感、僕にとってはちゃんと持っていることが大事なんです。しばらくコンビニないかもと思ったら、食べものも大量に買い込んでましたよ。水は基本 500ml のペットボトル 2 本にプラス 1、2 本持ちましたし。それで 4 本入るリュックがよかったんです。

——肩や腰はどの辺りから痛み始めたんですか？

岩立 R7 の終盤、佐々木駅付近 (410km) から新潟駅に向かっているときです。荷物を背負って走ることに慣れていたつもりでしたが、ここまで長時間だと負荷が大きかったんでしょうね。クロスランナーはショルダーベルトにクッションがないから、肩も痛くて。しかも歩道はデコボコで走りにくいし、R7 でやめようかと思いました(笑)。結局、新潟から先は 2 日間、1 日 100km 進めませんでしたから。TR ロケットは少し重いけどショルダーにクッションが付いているし、わりとしっかりした構造だから、腰もだいぶ楽になりました。

——私は左足首を痛めて何日かまともに走れなくなりましたが、足は大丈夫でしたか？

岩立 足は全然。たまにどこか痛くなる時があっても、ちょっと揉んだり湿布を貼っておけば治るんです。普段、湿布なんてほとんど使わないから、たまに貼るとすごい効果が出るみたいで(笑)。「本州縦断フットレース」が終わってからもダメージは特にはないですね。ゴール翌日は移動や仕事があったから練習を休みましたけど、次の日から 20km 走って。むしろ 11 月になってから、なんかおかしいです。出場を予定していた「24 時間/12 時間/8 時間走 in 弘前」が中止になったし、リフレッシュも兼ねて走行距離を減らしたら、腰が痛くなってきて。走っていた方が体がほぐれていいのかもしれない。

——岩立さんの頑強な足はトレーニングで作られたものだと思いますが、通勤ラン以外にはどんな練習をされているんですか？

岩立 近所の江戸川沿いを上ったり、下ったり。遠くまで走ろうと思ったときは栃木の宇都宮や茨城の水戸まで行ったりします。宇都宮で片道 80km、水戸で 90km 弱ぐらいですかね。スピード練習はほとんどしません。シーズン最初のフルマラソンをスピード練習代わりにすれば、次からサブ 3 は取れるので。タイムを突き詰めるとウルトラとのバランスが崩れる気がするし、今ぐらいでいいのかなど。フルは記録狙いというより、メンタルを鍛えるトレーニングだと考えています。

——フォームなどで心掛けていることはありますか？

岩立 ヒザはなるべく上げず、平行に移動するよう意識していますね。なるべく疲れないように、ヒザを壊さないように。すり足気味になるから、ちょっと段差があるだけで転びます(笑)。ヒール着地で姿勢も傾いてるらしくて、左かかとのソールばかり減るんです。一回、雑誌の企画で大学の先生に見てもらったことがあるんですけど、体は傾いているのになぜかバランスは取れていると言われて。きっと僕にとっては楽な走り方なんでしょう(笑)。

やっぱり最後は限界が近かったんだと思います

——走るペースは、どれぐらいを意識されていたのですか？

岩立 動いているときは1km6分ですけど、信号やコンビニ、道の確認などで立ち止まるから、実質時速7~8kmで進めればいいたろうと。歩くことはほとんどなく、ずっと走ってました。それと、本当に宿がないところでは体力が尽きないように心がけていて。それでも1回だけ、石川県に入ってから金沢の兼六園(730km)に向かう途中、20時を過ぎてしまったんです。市街地まであと1時間はかかりそうだし、辺りは真っ暗。気持ちも切れてしまい、通りがかりにあったホテルに飛び込みで泊まりました。

——舞鶴(950km)を過ぎてからの区間も15時間で100km進めているのが一番の驚きでした。1000km走った後の山道も苦にしないんだなと。

岩立 その時点ではまだ余力があったんでしょうね。アップダウンもさほど気にならなくて。ただ、人気のない場所で夜を迎えたくないなどは思っていましたけど。兵庫の村岡(1045km)に行く手前に関宮ループ橋があって、下をくぐるじゃないですか。本当は夜にあそこを通る予定で、嫌だなと思っていたんです。結局、前半の遅れから20kmほど手前で1泊することになり、朝のうちに通ることができて。鳥取県境(1070km)に至るまでの下りも歩道がほとんどなかったから、そこも昼間に通過できてラッキーでした。

——鳥取は走りやすいけど、島根に入ってからがまたキツイんですよね。

岩立 島根の歩道はデコボコしたところが多いし、草もボウボウなんですよ。あと、なぜかやたらと「熊が出る」って言われたんです。実際、子供たちのランドセルにも熊鈴が付いているし。僕、熊は人を襲うって思い込んでいるところがあるから、暗がりでは何か動くたびにビクッとして(笑)。島根って距離も長いんですよね。僕は江津(1310km)から一気にゴールを目指したんですけど、まず益田(1371km)までが意外と遠かったし、そこから津和野(1404km)までもダラダラした上りで。県境を越えて山口県内に入ってからアップダウンばかりだし、泣きそうになりました。やっぱり最後は限界が近かったんですよね。

——江津から下関まで210kmありますからね。下関からの大型トラックもたくさん来る中、計画的に事を進めてきた岩立さんがよく行く気になったなと。

岩立 もう、行くしかなかったんです。1日半でゴールしないとその次の日からの仕事に間に合わないし、途中で1泊しようにも山口市内まで行かないと適当な宿がなくて。だか

らゴールした後も下関には泊まらず、家に帰ったんですよ。着いたら深夜1時で、家族はみんな寝ていて。朝起きて、普通に会社行きました(笑)。

——理想通り進めなかったのは、道迷いも大きいのでは？

岩立 そうですね、もう数えきれないぐらいロストしました。一番大きいロストは新潟に入った後、村上の市街地(374km)に入る手前ぐらいのところで、南に折れなければいけないところを真っすぐ行って、往復13kmぐらいロストしたんです。フェイスブックでは「トータル1500kmと考えたら1パーセント以下だ」なんて強がりでしたが、内心ショックだったし、結局このロストが後々まで響きました。

——「チェックポイントを通過すれば違うルートを通っても構わない」というルールですし、迂回してコースに戻ることは考えませんでしたか？

岩立 ルールは把握していましたが、やっぱり戻りました。先に進んでも元の道に戻れる保証はないし、僕は普段あまり旅行もしないから、知らない土地でコースから外れすぎるのも怖かったです。だから雰囲気がおかしいな、歩道がなくなるな、と思ったらすぐグーグルマップで現在地を確認して。それでも間違えまくったんですけど(笑)。

——どんなに注意していても、初見で正解を選ぶのは難しい箇所もありました。

岩立 地図を見ただけじゃわからないんですよ。必ずしも歩行者用の脇道があるとは限らないし、大回りしなきゃいけないとか、反対側に抜ける小さなトンネルがあるとか。山間部だと脇道を行った結果、コースから外れたり、行き止まりだったこともありました。だから結局はコース通りに進めないし、1521kmより長く走ることになりますね。

——妙な分岐に出くわしたときも考えちゃいますよね。

岩立 大きな道を走っていれば大丈夫、この道が国道に違いないと考えていると大間違いで。夜になると標識も見えにくくなるから余計迷いやすいし、街灯も少ないから地図を見るだけでもひと苦勞なんです。またどの道も大型トラックが多いから、背中に反射板や点滅灯は欠かせないですし。前から来る車に対しては、その車が通る付近の道路をハンドライトで照らして、自分がいることをアピールしていました。

——思うように進めないとき、焦りはありませんでしたか？

岩立 でも、ある程度のロスには許容範囲ですし、どんなに嫌な思いをしても宿に着けば今日は終わり。チューハイを飲んで寝てしまえば、明日はまた違う一日が始まりますから。そういう気持ちの切り替えがしやすい点でも、毎日泊まった方がいい気がします。

新記録を狙うなら春だと思えます

——どんなランナーが「本州縦断フットレース」に向いていると思いますか？

岩立 もしかしたら、24時間走に強い人は向いていないのかもしれませんが。200kmレースもそうですが、強いランナーは途中でトラブルに遭っても押し切ったり、リタイアして次のレースに切り替えるんです。でも1521kmもあると押し切れないし、まとまった時

間が必要と考えたら簡単にまた今度というわけにもいかない。トラブルやアクシデントがあっても気持ちを立て直せて、進み続けることができる人が向いている気がします。

——挑戦しようと考えている人に、攻略のアドバイスなどがあれば。

岩立 1521kmを1ステージと考えず、毎日休みながらステージレース的に進めていく方がいいでしょうね。僕の記録に1日5kmプラスするだけで新記録は出せるし、ロストなど無駄な時間を削れば14日を切ることもできるでしょうし。そのためには1日どのくらい進んでどこで宿泊するのか、ちゃんと計画を立てることが大事だと思います。

——ほぼノープランで突っ込んだ身としては、耳が痛いです。

岩立 (笑)。あとはやっぱり、明るい時間に一生懸命走ることでですね。事前にある程度の覚悟はしていましたが、交通量は多く狭い歩道ばかりで、夜は本当に危ないです。僕が夜に走ったのは1日数時間ですけど、何回もヒヤリとしました。4月から6月なら日照時間も長いし、うまくやれば1日120kmは進めると思います。記録を狙うなら春でしょうね。

——私はモチベーションが落ちたとき、岩立さんの存在に勇気づけられたんです。普段、そんな殊勝な考えに至ったことなんてないんですけど(笑)。2021年4月開催の「本州縦断・青森～下関 1521km フットレース 2020〈SPECIAL〉一斉スタート」に参加される方は、離れていても同じ道を進んでいる人がいることを強みにしてほしいですね。

岩立 僕も13日目のフェイスブックで「もう限界、15日で走ろうだなんて身の程知らずだった」みたいに弱音を吐いたら、励ましのコメントがたくさん来たんです。それもあって、行くしかないなと背中を押してもらって。

——もしかしたら「本州縦断フットレース」は一人で勝手にやっているようでいて、そうじゃないのかもしれないですね。またやりたいと思いますか？

岩立 今はまだ、いいかな。でも、意外といい思い出だけ残って、2021年になったらよーしとか思っちゃうかもしれません。また次は次で、今回行けなかった観光スポットに寄れるし、海の向こうに見えた島に渡ってみることもできるし。出雲大社にも行けますから。

——出雲大社、心残りなんですね(笑)。この経験を糧に出てみたいレースはありますか？

岩立 たくさんあります。また館山代表がどんどん新しいレースを用意してくれるみたいですし(笑)。残念ながら中止になった「24時間/12時間/8時間走 in 弘前」も、かなり楽しみにしていたんです。最近、足が売り切れなくなったのを感じていたし、今の自分がどれぐらい走れるのか、石川佳彦くん(24時間走世界ランキング1位)とどれぐらい戦えるのかなって。21年5月に改めて開催されるということなので、そのとき頑張りたいです。

——今回の記録を見ると、24時間走よりさらに長い距離の方が向いているかもしれません。

岩立 僕もそれは感じました。長くなればなるほど1km辺りのペースも抑えられるから、普段に近いスピードで走ることができますし。24時間走より48時間走、もっと長い6日間走とかの方がいいのかもなど。いろいろな意味で今後の楽しみが膨らみました。